

地域から世界を考える、先生たちの学びの時間

# JICA中国 教師国内研修

国際教育やESDに関心のある中国地方の先生方を対象に、国内でのフィールドワークや講義、ワークショップを通して、「誰ひとり取り残さない持続可能な社会」の在り方を考えます。その成果として参加型教材を作成して頂くことで、学びの知見を学校現場に還元していただく研修です。



## 募集人数

10名程度

## 対象・参加条件

- ・中国5県の小・中・高校、特別支援学校、中等教育学校、高等専門学校、教育委員会に在籍する教員（講師含む）
- ・参加にかかる内容、日程について所属校長の承諾を得られること
- ・国際教育、開発教育を実践されている、または今後実践する意思があること
- ・事前研修から報告まで、原則すべての日程に参加可能であること（一部参加が難しい方は事前にお問合せください）
- ・研修中に出される課題や成果物を提出できること

## 参加費用

### 個人負担

- ・研修、フィールドワーク時の食費
- ・訪問先への土産、資料購入等の支出

### JICA負担

- ・研修およびフィールドワーク時の交通費
- ・研修およびフィールドワーク時の宿泊費
- ・フィールドワーク時の傷害保険費

## 応募方法およびメ切

JICA中国HPから応募用紙をダウンロードし、JICA中国市民参加協力課までメールかFAXでお送りください。

**2022年6月30日(木) 17時までに必着**

## 選考について

お申込みが定員を超えた場合、応募用紙にて選考させていただきます。

## 研修スケジュール

### ●事前研修

JICA事業や開発教育に関する講義、ワークショップ体験など

**7月中～下旬のいずれかの土日 1泊2日**

※参加者の予定を可能な限り考慮し、日程を調整します

会場：JICA中国

### ●事後研修

フィールドワークのふり返し、教材作成に向けた協議

**9月3日(土)、4日(日)**

会場：JICA中国

### ●教材作成

有識者、参加者との教材完成に向けた意見交換、作成作業

**9月～1月**

### ●第2回国際教育研修会

本研修で作成した教材を発表いただきます

**2023年1月28日(土) (予定)**

会場：広島県内

## 教材提出について

**提出メ切：2023年1月**

フィールドワークおよび研修の内容をもとに、参加型教材を作成します。完成品は冊子として関係機関に配布するとともに、JICA中国HPに掲載、一般公開します。

【後援】 広島県教育委員会・広島市教育委員会  
岡山県教育委員会・岡山市教育委員会  
山口県教育委員会・島根県教育委員会  
鳥取県教育委員会 (予定)

お問合せ・お申込み先

JICA中国 市民参加協力課 教師国内研修担当  
TEL：082-421-6305 FAX：082-420-8082  
E-mail：jicacice@jica.go.jp

詳細・申込書は

JICA中国 教師国内研修

で

検索



## フィールドワークについて

### 8月2～3週目(予定・最長6日間程度)

中国地方や他の地域で、多文化共生・異文化理解・平和学習・人権問題などを学ぶことのできる場所や施設、団体を訪問します。※訪問先および参加者の予定を可能な限り考慮し、日程を調整します。

#### <参考：2021年度教師国内研修フィールドワークの流れ>

- 8/11(水)【JICA中国】  
各自が事前に調べてきた訪問先情報を共有
- 8/12(木)【広島県・大久野島訪問】  
毒ガス資料館見学、島内の戦争遺構見学
- 8/13(金)【オンライン】  
朝：パラグアイのラパス日本語学校の児童生徒、教員とのオンライン交流  
午後：JICAベトナム事務所によるオンライン講義
- 8/14(土)【オンライン】  
朝：パラグアイの広島県人会長とのオンライン交流
- 8/16(月)【オンライン】  
午前：JICA草の根技術協力事業の活動概要（岡山県津山市役所、社会福祉法人やすらぎ福祉会）  
午後：中小企業・SDGsビジネス支援事業の概要（岡山県・大紀産業株式会社）
- 11/27(土)【島根県雲南市】（※8月の豪雨のため中止したプログラムを11月に実施）  
「多文化共生カフェ Soban」訪問、地域の多文化共生における現状と課題、今後の取り組みについて話を伺いました。
- 11/28(日)【島根県江津市】  
午前：「日本語交流クラブ GOTO☆ワンハート」訪問、技能実習生とのベトナム料理交流会  
午後：講義、ディスカッション  
外国人材受入をめぐる日本の現状と問題点、地域の課題や実習生自身の今後の夢や進路など幅広いテーマで意見交換しました。



#### 参加者の声

「フィールドワークで見聞きしたことから、目の前の生徒たちに落とし込んで教材を作成するという一連の流れに、この研修の意味があると思う」

「子どもの頃から海外に興味があった私は、開発途上国の課題は勉強してきた。けれど、自分のこんな身近で起きていた悲しい歴史を今まで知らなかったことが恥ずかしいと感じた。」

「地域も校種も専門も異なる教員が集まることで、同じものを見ても異なる視点や多様な考えがあることを知り、とても刺激になった」